

～下記の研究を行います～

『左室収縮能が保たれた心不全における一回拍出量低下の規定因子および予後に与える影響に関する検討』

【研究責任者】 国立病院機構大阪医療センター 循環器内科 安部晴彦

【研究の目的】 現在、高齢化社会の到来によって心不全患者さまの数は増加の一途をたどっています。心不全には心臓の収縮が低下した心不全と心臓の収縮が低下していない見た目には心臓の動きが良い心不全があります。65 歳以上の高齢者心不全の約 50%が心臓収縮低下していない心不全とされています。さらに、見た目に心臓の動きが良いにも関わらず、心不全患者さまの生命予後は心臓収縮低下している心不全と同等に悪いことも知られています。ひとつの原因として心臓の動きが良いにも関わらず、心臓から拍出される血液量が少ない心不全が存在することが考えられています。しかしながら、心臓から拍出される血液量が低下する機序および心不全患者さまの生命予後に及ぼす影響については十分に知られていません。そこで当院では、過去のカルテ情報、血液検査、心臓超音波検査の結果を総合的に評価し、個々の患者さまの心臓から拍出される血液量がどのような原因によって引き起こされているのかを調査し、また、心不全患者さまの生命予後にどのような影響を及ぼしているかを検討します。

【研究の期間】 研究許可日～2022 年 6 月 30 日

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成 25 年 4 月～平成 29 年 4 月に心不全入院された患者さまで、心不全安定期に心エコー検査を実施され、心臓収縮が低下していないことが確認された患者さん。

●研究に用いる試料・情報の種類

- ①患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、現病歴、心不全再入院あるいは死亡となるまでの日数等
- ②疾患情報：入院中の血圧、脈拍数、血液検査所見、心臓超音波検査所見、心臓カテーテル検査所見等

【研究の資金源】 本研究に関連し、ベーリンガーインゲルハイム（株）より寄付を受けております。

【利益相反】

臨床研究における利益相反（COI（シーオーアイ）：Conflict of Interest）とは、「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。

なお、本研究の利益相反については、当院の利益相反審査委員会で審査され適切に管理されています。

- ◎本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
- ◎ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
- ◎情報等が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

国立病院機構大阪医療センター
〒540-0006 大阪府大阪府中央区法円坂2丁目1-14
TEL (06) 6942-1331 (代)
研究責任者 循環器内科 医師 安部 晴彦